

第5分科会レポート

石川の多文化共生の進化、深化、新化をさぐる 在住外国人の仕事づくり×訪日外国人を増やすには？

【趣旨】

石川県内でのこれまでの多文化共生の地域づくりを振り返りながら、日本人も在住外国人も共に Win-Win になれる地域づくりとして石川への訪日外国人の受入体制づくりや仕事づくりを探る。



母語で発言できるよう、通訳つきの多言語で行われた
(日本語・英語・スペイン語・フランス語・中国語)

【ゲスト】

■渡邊 崇志（ゲストハウス品川宿館長）

東京都北品川出身。学生時代に世界 10 カ国を旅する。大学では観光学を専攻。昨年 10 月に旧東海道の第一宿場町である品川にバックパッカー向けの「ゲストハウス品川宿」を開業。品川宿の歴史文化情報を世界へ発信することで宿場町としての復権と、国際交流による地元商店街の活性化を目指している。旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会会員。

■川上 広造（アーテックス株式会社代表取締役）

金沢市出身。金沢を訪れる外国人旅行者のための英語版フリーペーパー「Eye on Kanazawa」を 2008 年に創刊。国際都市金沢の情報を世界の人たちへ発信している。

■アンデルス・ゲイトウ（Métissage 店主）、西出 直美

アンデルスさんはフランス・パリ郊外出身。コスタリカ、ロンドン、パリでパン職人として働く。コスタリカで出会った直美さんと結婚し、5 年前から直美さんの実家のある粟津温泉で住む。日本語で「交流する」という意味のパン店「Métissage（メティサーージュ）」を 2 年前から開業。

【コーディネーター】

■谷口 健一（ねあがりカライダスコープ代表）

能美市山口出身。根上地区で国際協力、多文化共生の地域づくりを進めている。能美市協働型まちづくりの推進をする市民会議にも参画、現在、市民活動支援補助金事業やまちづくり人材育成事業の企画、運営にも携わっている。

協力団体●NPO法人 たぶんかネット加賀 <http://tabunkanet.exblog.jp/>

会場●蘇梁館（加賀市熊坂町ハ 2 8 - 3）

参加者●30 名

1. 分科会内容（要約）

（1）国際交流の取組と多文化共生について

- ①「これまで」…コーディネーター・谷口さん
- ②「今とこれから」…石川県観光交流局国際交流課・田西課長

（2）多文化共生の課題と「これからの新たな展開」…ルロワ東出

（3）地域の在住外国人の取組例…メティサージュ

地域で外国人が仕事をする事、お店が外国人の Tourist Information になっていること、パンだけではなくワイン会やクリスマスマーケットなどの開催で交流の場となっていることなど。全てのことにお客様が、言葉だけではなく様々な違いを理解するための役割（コーディネータ）を果たしている。



ゲストのアンデルス・ゲイトウさんと西出さん

（4）ソーシャルビジネスと地域の Win-Win との関係…ゲストハウス品川宿

ゲストハウスに至るまでの話から、地域に入る過程、そしてゲストハウスが地域に果たす役割、これからの展開など。



ゲストの渡邊さん(左)と川上さん(右)

（5）外国人観光客誘客の取組事例

…「eye on kanazawa」・情報発信

金沢のみならず石川県の英語での情報発信に大きな役割を果たしている。上手くいっている点、改善を考えている点。「eye on kanazawa」加賀支部にルロワ東出が、粟津支部にメティサージュが立候補。

（6）参加者同士の交流

…食事休憩、食後にコーヒー

（7）地域をつなげる事例

…オンパクとは？うまみんの事例紹介

地域のいろいろな取組をどうつなげるか？オンパク形式の能登旨美（うまみん）の説明。うまみんのキーワードは、「今だけ、ここだけ、あなただけ」。ゆるゆる感のつながりで、わくわくすることを、能登の地で。



「オンパク」「うまみん」の事例を紹介する大湯委員長

（8）全員で Win&Win トーク

①振り返り

- アイディアカードの読み上げとグルーピング。
- ・外国人誘客（インバウンド）に在住外国人を活かせればもっと雇用も
- ・地元の外国人の方とのビジネスを通じた関わり
- ・それぞれのアイディアをつなぐ人が必要!!
- ・「仕事」そのものというよりは信用できる、つなげる人が必要!!コネクションが必要!!
- ・「就業規則」の多言語化が必要
- ・日本システムだけではなくて、他国のいい点を取り入れることも大切
- ・世界を相手にするなら、連携が必須!!
- ・ゲストハウスが地域にあれば外国人誘客はもっ

と進んでいく。特にバックパッカー、バックパッカーはリピーターにつながる

- ・ゲストハウス、感動の共有、情報交換。外国人旅行者と地域の人をつなぐゲストハウス。地域と融合した宿「宿場ジャパン（渡邊氏の取組）」
- ・メティサージュ…店が粟津温泉の観光案内所になっている。コミュニティスペースの用途も。価値観の共生・共存の場
- ・情報の「見える」化・多言語化。ex. 高山市の観光情報は12言語!!!
- ・SNSの有効活用、フェイスブック、積極的なコミュニケーションをとる!!
- ・「eye on kanazawa」と「うまみん」がコラボしては？発信力につながる
- ・地域で困っているイノシシをフランス人が好む料理に地域に住むフランス人が調理して提供し地域づくりに活かす。パンはもちろんメティサージュ（フランス人）のフランスパン…地域と外国人住民のコラボ
- ・ワイン会、クリスマスマーケットなど、地域の外国人が入ることでより本物になるイベントを!! Challenge、実験的な取組



ゲストとコーディネーター

2. 開催で得たもの（新しい発見）

分科会最後の「全員で win-win トーク」で、「外国人従業員への就業規則多言語化」の話が出たら、メティサージュでは逆に日本にあっても、フランスの就業環境を整え始めている話が出た。その話を聞いた参加者から、「僕もそんなふう働きたい！」と地域で楽しく仕事し、働く話へと話が展

開していった。外（外国）の視点を地域に取り入れてゆくことは、若者のUターン、Iターンにも生かせる取組ではないか。

参加者の半数が20~30代という、外国人住民だけではなく、地域づくりに関心のある若者の参加が実現できた。ソーシャルビジネスは、若者に関心のあるキーワードらしい。特に大学の無い地域で若者を地域づくりに参加させるヒントとなるのではないか。

3. まとめ

盛り上がった話を、コーディネーターの谷口さんに、「日本人 VS 外国人という多文化だけではなく、多様な価値観は日本人同士でもある。これからは、多様な価値観の共生に向かって、それが地域の活性化となる」とまとめていただいた。絵に描いた餅にならないために、一步を歩みだしましょう！

4. 今後に向けた展開

ゲストの渡邊氏が、日本のゲストハウスネットワークを立ち上げる。というのも、品川宿は外国人バックパッカーにとって、日本、最初の宿であり最後の宿にもなりえるという立地条件から。参加者に石川県でのゲストハウス開業を考えている方もいたのでインバウンドに向けての関係ができてゆくかもしれない。

今回の参加者は、どちらかという国際交流団体関係者が多かったので、すぐに「うまみん」のような企画にはつながらないかもしれないが、国際交流団体を通じて在住外国人へ情報発信してもらえることも可能なので、これからは、この分科会に参加してくださった方を中心にSNSなども活用し、賛同して下さる方をつなげて行くことが可能になると思う。まちづくり、多文化共生、国際交流、ソーシャルビジネスへの関心者が、顔の見える関係を作った上で、SNSを通じ活発に情報や意見を共有・交換することは、一風かわった新しい視点での企画の素地となる。

円陣の全体会、交流会でも、インバウンドもし

くは外国人からの視点による地域活性化への期待の声を聞いた。今回の分科会での提案を足がかりとし、ネットワークが県下で広がる可能性を感じている。

今後、たぶんかネット加賀がこの取組に関係してゆくかは理事が決めることなので、今回の円陣担当者（ルロワ東出）がその確約をすることはできない。しかし、能登うまみんの事例をみても「ゆるゆるの関係」であっても、3個人がしっかりつながることでこのような活動が運営できることを知った。石川県で核となる3人（もしくは5人）程度を見つければ今後実現化に向かって行ける可能性を感じた。



分科会風景

5. 参加者の声

- 多文化共生が地域づくりの一環であることを強く認識しました。
- 第5分科会に参加されていた方々の大半が現場（第一線）で活躍されていらっしゃる意欲溢れる方々で、とても頼もしく感じました。
- 楽しくて、つい交流会まで居てしまいました。大きな行事でしたので、準備もさぞ大変だったことと思います。私個人としては、多文化共生はまちづくりの一環と改めて強く思いました。ぜひ円陣の関係者とのつながりを最大限生かしてってください。さらなるご活躍を期待しています。来年度の円陣はどこでやるのでしょうか。今後も、折を見て、多文化共生の方々が関わる機会があるといいですね。
- 今日は色々とお人をつないでいただきありがとうございます。ごさいます。

- 一番心に残ったのは、多様な価値観は外国人との間だけではなく、日本人の間でも同じであるという点でした。地域の多様な価値観を地域活性につなげて行く。ゲストハウス、イノシシ料理、他言語観光サイト…せっかくのご縁でしたので、実現に向けて一歩踏み出したいですね。



石川県の国際交流の取組について紹介する石川県国際交流課の田西課長

6. その他

「一人ひとりが自らも楽しめる小さくてもいいからワクワクする企画で、それらがつながることによって大きな企画となる」。外国人をターゲットとすることで石川のフィールドが一つになれる気がします。能登、金沢、白山麓、南加賀。多彩であるのに一つの県。国際交流をキーワードに、多彩な県内交流が出来る。そんな可能性が石川県にはあります。

「地域でも楽しいことがしたい」そこに共感する仲間を募って、つながることからはじめられる気がしてきました。

（記録者：佐々木かずみ、ルロワ東出）



会場となった蘇梁館

【第5分科会 アンケート集計結果】

a. 分科会を選んだ理由は何ですか？

- 自分の本業とも関わりがあり興味があった。
- 自身がかかわっている。
- 無理矢理。
- 多文化共生に興味があったため。
- 外国人との「つきあい方」「考え方の違い」を知りたい。
- 分科会の担当が第5でしたので。
- 国際交流に関心があったから。
- 地元外国人との国際交流に関心がある
- 異文化共生に関心があったため。

b. 分科会はどうでしたか？

- とても有意義だったし、思いがけない収穫があった。
- とても刺激的で良かった。
- 学生の参加が欲しかった。
- 知的刺激を感じました。人がつながるってすごくおもしろい事だと再確認しました。
- 意見のまとめ書きを貼り出す等、運営に工夫があり良かった。
- いろんな方の取り組みを聞くことができ、刺激を受けました。
- 意識の高い参加者が多く、楽しかった。
- 参加者全員の気持ちが伝わってきた。自分のイメージしている活動の刺激になった。
- 雰囲気がよく、コーディネートも上手でした。

